更衣を、工程と援助で記録する

正式な全項目票の翻訳ではありません。使用版の原票・採点基準と合わせてご利用ください。

氏名・ID：_____　日付：_____　評価者：_____

原票の版：_____　麻痺側：_____　発症後：_____

01 同じ条件で比べるための準備

衣服・留め具：_____
椅子・姿勢／用具：_____
痛み・疲労・理解／環境の変更：_____

02 原票の工程を転記し、実際の援助を記録

採点の基本：2＝自立（使い慣れた用具を含む）／1＝言葉による援助／0＝身体介助。
該当外・未実施は区別し、理由を記録。項目の完了条件や除外は使用版に従います。

衣服・原票の工程	得点	止まった場面／実際の言葉・身体介助
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

原票集計：合計 _____ 点 ÷ 対象項目の満点 _____ 点 ×100 ＝ _____ %
対象項目数 _____ 除外・未実施と理由：_____

この表は工程の転記・補助記録欄です。ここに書いた8行だけをNSDA全体として集計しません。
実施時間 _____ 分（休憩 _____ 分）　記録継続：☐ 別紙あり

観察から、次の練習へつなぐ

点数に加算しない補助記録｜環境変更による改善と、同一条件での改善を分けて残します。

本人の目標／自分で着たい衣服・困っている場面

止まった工程／視線・手の位置・衣服の状態・本人の言葉

原因の仮説と追加確認／運動・疼痛・感覚・注意・衣服の理解・疲労など

試した支援／短い声かけ・衣服の置き方・用具・動作方法

反応／介助が減った工程・残った困難・本人の負担

次回／日付・同じ衣服と環境・減らす援助・確認する動作

読み取り：同じ割合でも、声かけ中心と身体介助中心では支援が異なります。NSDAの割合は退院・回復の確率ではありません。安全に必要な介助は行い、その内容を記録します。

原資料：Fletcher-Smith（2011）学位論文・Appendix A
採点の解説：Christie et al.（2011）／検者間信頼性研究（2010）
改訂版：NSDA-R／ENVI-Rの研究（2026）
本用紙はSTROKE LAB独自の併用記録です。正式な項目・採点は原票をご確認ください。